

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

山本の影響力は

<ポイント>

- ・先週金曜は、米耐久財受注の下振れを受けてドルが下落した。
- ・対ドルではポンドの上昇が最も大きかった。
- ・ユーロ圏財務相会合では、ギリシャが譲歩姿勢を示したが財政改革リストが提示されず、特段の合意なく短時間で終了。
- ・本日は材料がない中で、先週末のドル安傾向が続くかが焦点。
- ・5月にみられてきた一部の高金利通貨の季節的な下落傾向が、今年も実現するかは定かではない。

昨日までの世界:耐久財の耐久力は弱く

先週金曜は、米耐久財受注が予想外にマイナスとなったことを受けてドルがほぼ全面安となったのが特徴的だった。対ドルではポンドが最も大きく上昇した一方、カナダドルは原油安の影響が大きく対米ドルでも下落した。

ドル/円は、欧州時間に一時的に 119 円台前半へ軟化する局面もあったが、NY 時間入りまでは概ね 119 円台半ばで推移していた。もっとも、米耐久財受注が(総合は前月比+4.0%と大幅プラスとなったものの)除く輸送用機器が-0.2%、コア資本財受注(非国防除く航空機)が-0.5%とプラスの市場予想に反してマイナスとなり、かつ前月計数も下方修正されたことから、米中長期債利回りの低下と共に一時 118.83 円へ下落した。

ユーロ/ドルは欧州時間入りにかけて特段の材料なく急上昇し、1.08ドル丁度近辺から一時 1.09ドル丁度へ上昇した。その後一旦 1.08 ドル台前半へ反落したが、米耐久財受注の予想比下振れによるドル安を受けて再度 1.08 ドル台後半へ反発するなど、上下に振れの大きい展開だった。ユーロ/円は、欧州時間のユーロ/ドル上昇と共に一時 130.11 円へ上昇した後、NY 時間にドル/円の下落の影響を受けて 129 円割れへ反落、引けにかけては 129 円台半ばへ回復した。

この間、ドイツ Ifo 景況感指数(現況指数と期待指数の平均)は現況指数の改善に牽引され 108.6 と前月および市場予想を若干上回った。但し、21 日発表の ZEW と同様に、期待指数は前月および市場予想を下回っており、ユーロ圏景況感のピークアウトが近いことを示唆している。

なお、ギリシャ問題を巡るユーロ圏財務相会合では、ギリシャが一部条件を受け入れる譲歩姿勢を示した上で凍結されている支援金の一部支払いを求めたが、財政改革リストが提出されていないことからユーロ圏財務相はギリシャの要求を拒否した。

豪ドル/米ドルも、米耐久財受注の下振れによる米ドル安を受けて、0.778 ドルから一時 0.7841 ドルへ上昇、その後も堅調を維持した。豪ドル/円は米ドル/円が下落する一方、豪ドル/米ドルが上昇したことから方向感が出ず、93 円丁度を挟んだもみ合いとなった。

ポンドは前日の英小売売上高の予想比下振れにも拘らず、欧州時間入りに1.51ドル丁度を上抜けして上昇が加速、米ドル安もあって一時 1.5188ドルへ上昇して高値引けした。ポンド/円も3月18日以来の一時 181 円乗せとなった。

きょうの高慢な偏見: 山本の影響力は

[今週の見通しはこちら\(4月24日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

本日は週半ば以降の重要材料(29日の米1QGDPとFOMC、30日の日銀決定会合)を控えて殆ど材料がなく、先週金曜の米耐久財受注の予想比下振れを受けたドル安が続くかが注目となる。

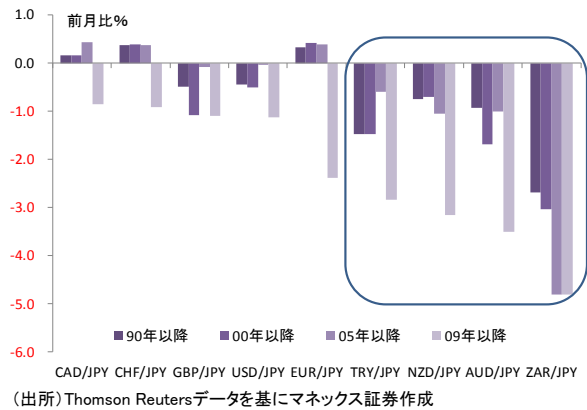
ドル/円は、今回 FOMC では利上げ開始に向けた具体的な動きはまだ出てこないとみられる中、米1QGDPの予想比下振れリスク(市場予想は前期比年率+1.0%)を事前に織り込む動きがドル安圧力となる一方、30日の日銀決定会合に向けて追加緩和観測が高まるようだとドル/円の下支え要因となる。先週金曜は政府側の異次元緩和推進派の一人である山本幸三衆院議員が、日銀が物価見通しを引き下げの中で30日の会合で何もしないのはあり得ない、と述べた。円高、株安が進む場合には追加緩和の機運は更に高まる。このため、ドル/円は118円台後半で基調としては上値が重い中で、もみ合いの展開が予想される。

ユーロ/ドル、豪ドル/米ドルは、米ドル安基調が続くと各々1.09ドル、0.78ドル台後半へじり高となりそう。こうした中、ユーロ/円、豪ドル/円は各々129円台後半、93円丁度近辺で強含みとなりそう。

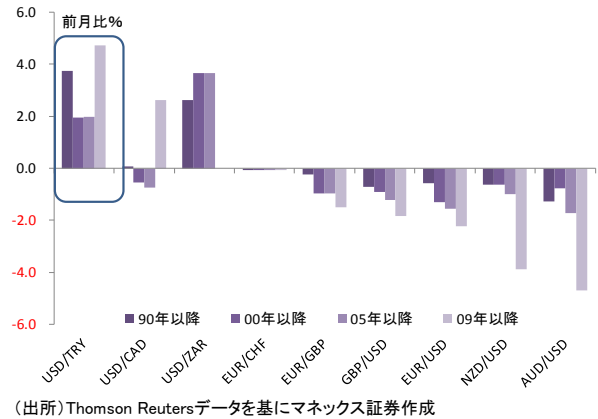
なお、来月5月の季節的なパターン(月次変化率)をみておくと、sell in May and run away という格言がある通り、ランド/円、リラ/円、豪ドル/円および NZ ドル/円などの比較的高金利通貨が売られ易い傾向がみられる。但し、ファンダメンタルズ面で明確な季節要因がある訳ではなく、むしろ豪ドルやNZドルは足許、コモディティ価格(各々鉄鉱石価格、乳製品価格)の持ち直しと利下げ観測の後退を受けて下支えされている。ランドやリラは、5月中に米経済指標が回復をみせドル高傾向が強まれば対円でも売られ易くなるかもしれないが、その場合のドル/円の上昇が下支え要因となるなど、現在の経済・金融

市場環境では過去のパターンが今年も実現するか必ずしも明らかではない。

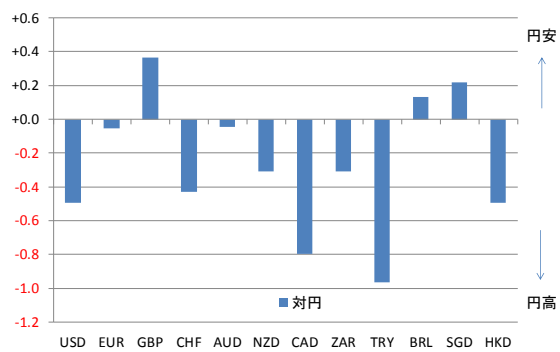
主要クロス円の5月の騰落傾向(中央値)



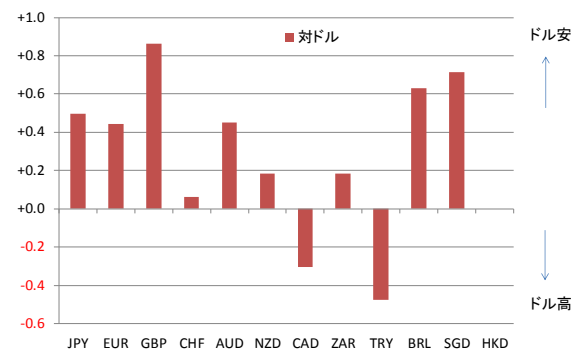
主要通貨ペアの5月の騰落傾向(中央値)



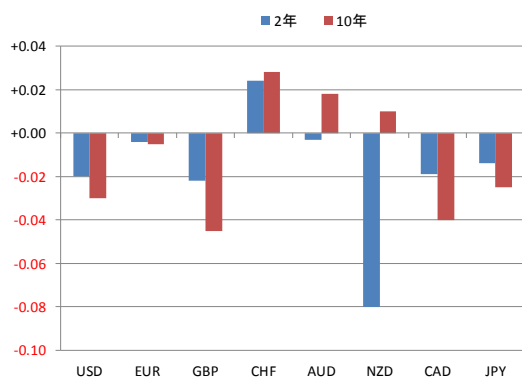
主要通貨の対円相場(前日比%)



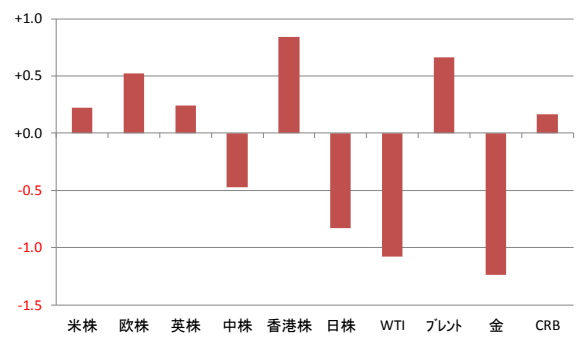
主要通貨の対ドル相場(前日比%)



主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



主要株価・商品価格(前日比%)



利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会